

1 事業名

平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークちゃれんじくらぶ ～ドキドキ わくわく・冬～」

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティア高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日 平成30年1月13日（土）～14日（日）

4 参加者 104名（盛岡市・滝沢市・八幡平市・雫石町の小学3～6年生）

5 後援 盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，八幡平市教育委員会，雫石町教育委員会

6 内容

(1) 日程

日時			13:00 13:30		14:00		15:00 15:30		17:30		20:15		21:00 21:30	
13日 (土)					参加者受付	はじめの会	アイスブレイク	荷物移動	冬をもって帰ろう♪ ～自分だけのスノードーム～	つくっちゃおう♪ ～0・NI・GI・RI～	ふりか浴えり	就寝準備	就寝	
日時	6:30		7:00		7:30		8:45		9:00		12:30		13:30 14:00 14:30	
14日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食準備	退所点検	めっちゃ雪やねん♪ ～雪遊びで心も体もポッカポカ～		昼食	アンケート記入	おわりの会	参加者解散			

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家

副主任企画指導専門職

佐々木 真里子

企画指導専門職

工藤 祐幸

事業推進係主任

藤根 智子

事業推進係

山崎 啓陽

指導補助

法人ボランティア

23名

(3) 企画のポイント

それぞれの活動のネーミングの際には、子供たちが参加したくなるようなドキドキ、ワクワク感をかきたてる名称を心がけた。企画立案に際して、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、テンパークちゃれんじくらぶ・秋が終わってから2回にわたり企画会議、事前準備を行い、活動全体を通して、コミュニケーションが深まるようにプログラムを構成し、それぞれの活動の中で、参加者同士や高校生・大学生とのコミュニケーションを図れるような工夫を行った。はじめの会後の最初のプログラムは、初対面の参加者の緊張を解きほぐすために、体を動かしながら参加者同士が関わり合うアイスブレイクを計画した。次の「冬をもって帰ろう♪～自分だけのスノードーム～」では、グループリーダーに相談しながら、班に配られた材料の中から、自分が使う小物を話し合っ決めてたり作品を見合ったりして、スノードーム作りに取り組む中でコミュニケーションが深まるようにした。また、瓶の中に入れる小物については、

事前にフィギュア等の小物の持参を呼びかけ、自分だけのスノードームを作ることができるようにした。その後の「つくっちゃお♪～O・N I・G I・R I」では班ごとに5つのブースを回り、それぞれのブースでの課題を協力して解決し、おにぎりの具材チケットを獲得する活動を設定した。そして、獲得した具材や予め用意しておいた具材を使ってのおにぎり作りを計画した。季節的にも食中毒の発生防止に努めるため、企画会議・事前準備の段階から手洗いや消毒等の衛生管理についての共通理解を図り、活動中も徹底するようにした。また、活動終了後に班ごとのふりかえりを組み入れることで、参加者同士のコミュニケーションを図り、班のまとまりを強め2日目の活動に対する意欲を高めることができるようにした。「めっちゃ雪やねん♪～雪遊びで心も体もポッカポカ」では、6班ずつの2グループに分かれ、グラウンドでの5つのブースを巡りながら班のみんなで力を合わせて取り組む内容の雪遊びとソリすべり場でのソリ遊びをローテーションで体験する活動を計画した。また、ローテーションの合間に雪景色の中、班のメンバーでココアを飲みながら交流できる休憩時間を設定した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へ開催要項とチラシを送付した。

(5) 運営のポイント

小学生の12グループに、体験活動支援セミナーの参加者と法人ボランティアを2～3名ずつグループリーダーとして位置付け、小学生の参加者が不安を抱くことがないように心がけた。さらに、班のコミュニケーションを深めることで、参加者がより楽しく活動できるようにグループリーダーが率先して関わるようにするとともに、グループリーダーがうまく関わるできないいる班には、企画ボランティアが間に入りコミュニケーションのきっかけをつくるなどの配慮をした。おにぎり作り体験では健康観察を取り入れたり、衛生管理の徹底を図ったりすることで、子供たちの健康状態を把握し、安全により楽しく活動できるように配慮した。

また、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。(補足資料1を参照)

7 成果とその普及

プログラムを企画する段階から事業の目的を強く意識して活動内容や場、時間配分等を検討していくことで、子供たちに与える感動の大きさがちがってくると感じた。感動が大きければ大きいほど、体験活動が子供たちの豊かな将来を育むことにつながるのではないかと考える。各プログラムでは、参加者同士や高校生・大学生とコミュニケーションを図る場面が多々あり、参加者のアンケートから「テンパークちゃれんじくらぶ・冬に来たことで、また新しい友達ができただけよかったです。大学生の人とも仲良くなれました。また来たいです。」「初めての体験がたくさんあって、できるようになったことが増えたと思います。いろいろな楽しいこともあって友達もできました。とても楽しい一泊二日でした。」「友達がたくさんできて、お姉さん、お兄さんとも仲良くできてよかった。」などの感想が多く寄せられた。こうした子供たちからの声を企画ボランティアに還元することで更なる充実を図っていきたい。

8 今後の課題

「冬をもって帰ろう♪～自分だけのスノードーム～」のスノードーム作りの仕上げの段階で瓶から溶液が漏れるというアクシデントが発生してしまい、参加者に不安を与えてしまった。その場合は、職員と企画ボランティアの対応で事なきを得たが、スタッフミーティング後の点検でも数件発生し、修理に時間がかかってしまった。ブラッシュアップでの実地踏査の際には、問題なく制作できていたので想定外のアクシデントであった。今後はあらゆる場面を想定した綿密な実地踏査を行い、参加者が安心して取り組めるような企画にしていきたい。



冬をもって帰ろう♪
～自分だけのスノードーム～
(創作活動)



つくっちゃお♪
～O・N・I・G・I・R・I～
(おにぎり作り体験)



めっちゃ雪やねん♪
～雪遊びで心も体もポッカポカ～
(雪遊び体験)

補足資料 1 テンパークちやれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

